

和して同ぜず・東北アジア書画展

中国 北京市 2017.08.24~08.30

第3回「和して同ぜず・東北アジア書画展」が北京民族文化宮にて開催され、中・日・韓・北朝鮮・モンゴルの五カ国交流が行われました。

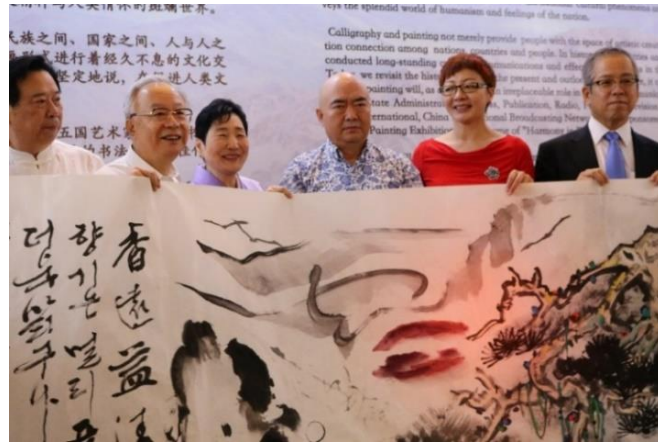
書画家による実演も行われ、大きな紙に一人一人が文字や絵を描き入れ、皆様が筆を入れ終わると、まさに水墨画のような見事な一枚の作品が出来上がりました。お互いに、それぞれの国の特徴を表現しながらも融合し、まさに『和して同ぜず』の素晴らしい作品となりました。

小林芙蓉は、溢れる人が見守る中「観」という字を揮毫。「観音様の観です。空海が留学していた唐の時代に流行った飛白体を使い、日本と中国の感覚を合わせて心の目で観てほしい、心の目で観ながら皆さん仲良くなれるようにと表現しました」。

会場では、じっくりと作品を見られる姿、言葉は通じなくともお互いに心と心で感じ合い、交流し仲良くなり、芸術を通じ友好を深め、世界の平和を祈る素晴らしい国際芸術展となりました。



会場の民族文化宮



五か国の皆様の寄せ書き



「観」



横澤和也氏の笛の調べの中「観」を揮毫



じっくり見て下さる方々



「未来・青少年展」子供たちの書・絵画も展示されました



「濤」「竹」「海」「川」「精霊」「日月」「波」